

# インフォメーション・コーナー

## 会 告

○学会創立 80 周年記念出版「改訂七版農業農村工学ハンドブック」の刊行について	66
○平成 22 年度会員名簿の掲載事項について（再）	66
○平成 23 年度農業農村工学会賞候補の推薦について（再）	67
○論文集の J-STAGE への登載と論文集投稿時の振込金の変更について（再）	67
○学会誌掲載報文等による通信教育の参加者募集!!	67
○「農業農村工学会学術基金」への募金について	68
○農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてのお願い	68
○身近にある水利遺構で表紙を飾ろう!! 「水土の知（農業農村工学会誌）」平成 23 年夏季の表紙写真の募集	69
○「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております!	70
○国際学会「国際水田・水環境工学会」への入会のお願いと国際ジャーナル 「Paddy and Water Environment」について	71
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2009 年 1 月から 2011 年 12 月までの編集事務局（投稿先）のお知らせ	71
○平成 22 年度北海道支部行事予定について	72
○平成 22 年度京都支部地方講演会・シンポジウムの開催について（第 2 報）	72
○平成 22 年度農村道路研究部会研究集会・現地研修会の開催について（第 2 報）	74
学会記事	75

### 第 78 巻第 10 号予定

展望：景観に配慮した農業農村整備への視座：藤本信義

小特集：農業農村整備事業を契機とした農村環境の保全

①魚のゆりかご水田プロジェクトにおける地域活動：碓 登志之ほか

②恵那市坂折棚田の景観保全活動：岡島賢治ほか

③西鬼怒川地区の事例に見る農村地域の環境保全へ果たす NPO 法人の役割：守山拓弥ほか

④用川沿岸地区における農村環境の保全の事例：吉良清加ほか

### 技術レポート

北海道支部：水路トンネル拡幅工事における掘削工法の検討：池上大地ほか

東北支部：ため池堤体改修の中層地盤改良工法による軟弱地盤対策：佐藤寛之ほか

関東支部：農業用送水管における管更生：須長 司

京都支部：山陰地区における集落営農への取組み：島田敬三

中四国支部：笠岡湾干拓地区における水管理システムの更新：河原 進ほか

九州支部：泥岩の吸水膨張による法面の崩壊とその対策：馬場幸夫

小講座：「農地・水・環境保全向上対策」にみる活動組織の地域づくり：筒井義富

私のビジョン：農業農村工学との邂逅と今後の研究方向：森 淳

### 農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。奮って参加下さるよう、お待ちしております。

ⓑのマークは、技術者継続教育認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成22年10月7,8日	農地保全研究部会	第31回研究集会	持続的農業のための農地保全	前橋市	78巻7,8号
平成22年10月14,15日	京都支部	平成22年度地方講習会・シンポジウム	シンポジウム：農村における生物多様性の保全	名古屋市	78巻7,9号
平成22年10月15日	北海道支部	第59回支部研究発表会		札幌市	78巻8,9号
平成22年10月19,20日	九州支部	第91回講演会・ポスターセッション・第33回講習会・シンポジウム・現地見学会		熊本市	78巻6,8号
平成22年10月20日	関東支部	第61回大会講演会		甲府市	78巻6,8号
平成22年10月27,28日	中国四国支部	第65回講演会・第34回地方講習会		山口市	78巻6,8号
平成22年11月4,5日	農村道路研究部会	平成22年度研究集会・現地研修会	農村道路の機能保全	奈良市	78巻8,9号
平成22年11月17日	北海道支部	第35回研修会または第33回シンポジウム		札幌市	
平成22年11月17~19日のうち一日	資源循環研究部会	平成22年度研究発表会	農村における水やバイオマス等資源の利活用及び循環に係る調査・研究の最新成果	東京都	78巻7号
平成22年11月18,19日	東北支部	平成22年度総会・支部60周年記念講演・第53回研究発表会・第44回研修会・第34回地方講習会		盛岡市	78巻6,7,8号
平成22年11月18,19日	京都支部	第67回研究発表会		津市	78巻7号
平成22年11月25,26日	水文・水環境研究部会	第23回シンポジウム	農林地および広域の水文・水環境	宇都宮市	78巻7号
平成23年1月19日	北海道支部	講習会		札幌市	

### 学会創立80周年記念出版「改訂七版農業農村工学ハンドブック」の刊行について

学会創立80周年記念事業の一環として、かねてより、改訂七版農業農村工学ハンドブック編集委員会（委員長：田中忠次（社）地域資源循環技術センター理事長）において編集作業を進めて参りました「改訂七版農業農村工学ハンドブック」が、8月末に刊行の運びとなりました。

農業土木学会から農業農村工学会への学会名称の変更等をふまへ「改訂六版農業土木ハンドブック」を改訂し「改訂七版農業農村工学ハンドブック」として下記のとおり刊行します。

記

書名 改訂七版農業農村工学ハンドブック

体裁 B5判 8ポイント組 本文約1,250ページ  
(本編約800ページ・基礎編約450ページの2分冊セット)

価格 定価 20,000円(税込・送料学会負担)  
会員価格 16,000円(税込・送料学会負担)

申込先 〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

(社)農業農村工学会事務局 図書係

☎03-3436-3418 FAX 03-3435-8494

E-mail: suido@jsidre.or.jp

### 平成22年度会員名簿の掲載事項について（再）

平成22年度版の当学会会員名簿の発行に係る掲載事項については、個人情報の保護に関する法律の規定に基づき、従来どおり当学会の「会員名簿の発行に伴う個人情報の扱い」により対処しますので、掲載事項としている下記の事項について、掲載に同意されないものがある場合は、会員番号と氏名を明記のうえ、郵送、E-mail または FAX で、10月1日（金）までにご連絡下さい。（非掲載項目につきましては、前年度までにご連絡

を頂いていて、変更のない場合は再度ご連絡を頂かなくても結構です）

なお、ご連絡がない場合は、下記事項の掲載に同意されたこととさせていただきます。

記

会員名簿掲載事項

①【氏名】 ②【会員番号】 ③【出身校】 ④【卒年】

- ⑤【資格】 ⑥【勤務先及び役職】 ⑦【自宅住所】  
⑧【自宅電話番号】

連絡先

郵送の場合：〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

農業農村工学会 馬目あて

E-mail の場合：manome@jsidre.or.jp

FAX の場合：03-3435-8494

(参考)

会員名簿発行に伴う個人情報の扱い

以下の項目を遵守することによって、個人情報取扱義務を全うする。

1. 利用目的の特定，利用目的による制限  
農業農村工学会会員名簿の作成業務及び会員管理にのみ利用し，この範囲を超えて利用しない。
2. データ内容の正確性の確保  
個人情報の正確性，最新性を確保する。
3. 安全管理措置，従業者，委託先の監督  
安全管理のために，学会職員，印刷業者等に対して必要かつ適正な監督を行う。
4. 第三者提供の制限  
名簿は，(社)農業農村工学会定款第6条に定める会員及び同会員が所属する機関に限り原価にて頒布する。

### 平成 23 年度農業農村工学会賞候補の推薦について (再)

平成 23 年度の農業農村工学会賞（上野賞，沢田賞を除く）を，78 巻 6 号 60 ページの募集要項に則って，推薦書によりご推薦下さい。

締切りは，平成 22 年 10 月末日です。推薦書様式および，授賞規程は学会 HP をご参照下さい。

### 論文集の J-STAGE への登載と論文集投稿時の振込金の変更について (再)

#### 論文集編集委員会

論文集の J-STAGE (JST (科学技術振興機構) による電子ジャーナル公開システム) への登載について，論文集購読者へのアンケートおよびホームページにおけるパブリックコメント聴取を経て，発行 1 年後に論文集掲載論文を J-STAGE へ登載すること，また，登載料として著者に 4,000 円を負担していただくことを第 210 回理事会 (平成 21 年 5 月 19 日開催) において決定し，論文集 259 号 (平成 21 年 2 月号) より J-STAGE へ登載すべく準備を進めております。

現在，投稿料 16,000 円を投稿時にお振り込みいただいておりますが，J-STAGE への登載料 4,000 円 (J-STAGE への登載料は 5,000 円ですが，1,000 円は従来の投稿料から捻出する

こととし，4,000 円を新たに負担いただきます。) についてもあらかじめ徴収することとし，平成 22 年 4 月 1 日受付分より合計 20,000 円をお振り込みいただくことといたしました。

その理由としては，論文集の発行と同時に J-STAGE へ登載するために JST に支払う必要があるからです。

ただし，審査の結果，投稿論文等が掲載不適となった場合は，登載料 4,000 円は返金いたします。

なお，論文集 259 号以降に掲載された論文等についての登載料は遡って著者に請求させていただきますので，ご了承いただきたくよろしくお願い申し上げます。

### 学会誌掲載報文等による通信教育の参加者募集!!

#### 行事企画委員会

#### 技術者継続教育機構 CPD 運営委員会通信教育部会

学会誌を出典とした通信教育を平成 18 年 11 月より本格実施しております。学会誌購読による自己学習で最大年間 10 CPD ポイント，また，通信教育で最大年間 24 CPD ポイントが取得できますので，是非，通信教育にご参加下さい。

なお，学会誌 2 月号に掲載された通信教育問題から配点を改正 (正解率 70% 以上の場合 1.0 CPD ポイントから 1.5 CPD ポイントへ，正解率 100% の場合 1.5 CPD ポイントから 2.0 CPD ポイントへ) いたしました。詳細については，第 53 回通信教育問題 (学会誌 2 月号 65 ページ) をご参照下さい。

#### 1. 参加会員の募集

参加をご希望の正・学生会員で，かつ CPD 会員の方は，農業農村工学会のホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/cpd>) にある参加申込書に必要事項を記入してメール (E-mail : kaito@cpd.jsidre.or.jp) あるいは FAX (03-5777-2099) でお送り下さい。

なお，この機会に農業農村工学会，技術者継続教育機構への入会を希望される方は，同様にホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>，<http://www.jsidre.or.jp/cpd>) に申込様式がありますので，ご記入の上お申し込み下さい。

## 2. 申込期限

参加は、いつからでも可能です。

## 3. 内容

問題は3カ月前の学会誌の報文等から、CPD 運営委員会通信教育部会が作成し掲載します。

問題は択一式で、毎回10問出題します。報文の事実的内容から作成し、回答はメール(E-mail:kaito@cpd.jsidre.or.jp)で機構に送信していただきます。

採点の結果、7割以上正解で1.5CPDポイント、満点で2.0CPDポイントが取得でき、CPD会員の継続教育記録に自動的に登録されます。

解答は技術者倫理に則り、自らの責任において作成していただきます。

## 4. 参加費

学会会員のための行事の一環として実施するため、学会が必要経費を負担しますので、当分の間、通信教育参加費は無料です。

## 5. 通信教育受講者の特典

採点結果は自動入力されますので、毎年4月中に取得した点数を本人にお知らせし、5月上旬から希望により有料で「CPD取得証明書」を発行します。

### 「農業農村工学会学術基金」への募金について

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本の農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成3年4月に学術基金を創設し、これに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金による助成は、平成21年度までに54件の実績をあげています。

個人会員一口 5,000円(何口でも可)

法人会員一口 50,000円(何口でも可)

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名(社) 農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

### 農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてのお願い

#### 災害対応特別委員会

農業農村工学会では、近年における地震、豪雨等による災害が各地で発生し、農地・農業用施設等に甚大な被害をもたらしている状況を鑑み、それら災害の原因究明、復旧対策工法の採用等に対する支援を行う組織として、災害対応特別委員会を設置しています。

この災害対応特別委員会では、「①農地・農業用施設に甚大な被害が発生した自然災害」、「②学術的見地から緊急調査が必要と判断される自然災害」に対して、災害発生後、直ちに災害対応調査団を派遣し、調査の実施、復旧支援を行う体制を整備しています。

そこで、災害対応調査団を組織しなければならない事態が生じた時に、早急に対応できるよう、調査団のメンバーに加わっていただける方は事前に登録をお願いします。審査の結果、登録された会員は、災害対応調査団候補者名簿(2年ごと更新)に記載して、緊急災害時等の場合に現地調査を行って頂きます。

なお、災害対応調査団の団員の資格および派遣の条件は、以

下のとおりです。

- ① 調査団の候補者は、高度な専門知識を有する農業農村工学会員とする。
- ② 派遣する調査団員は、候補者名簿の中から選定する。
- ③ 調査団の派遣期間は、原則2～3日とする。
- ④ 調査団派遣に関わる旅費は、農業農村工学会が後日精算する(年度予算限度額300万円)。
- ⑤ 調査団員に対して、調査に必要と考えられる保険を掛ける。
- ⑥ 調査団は、調査結果を速やかに報告する。

上記の趣旨をご理解のうえ、学会事務局 FAX 03-3435-8494、E-mail saigai@jsidre.or.jp までお申し込み下さい。様式は農業農村工学会ホームページ(<http://www.jsidre.or.jp>)よりダウンロードして下さい。多数のご参加をお待ちしております。

なお、登録頂いた個人情報、災害対応調査にのみ活用し、適切に取り扱います。

**身近にある水利遺構で表紙を飾ろう!!**  
**「水土の知（農業農村工学会誌）」平成23年夏季の表紙写真の募集**

学会誌編集委員会では、平成23年も引き続いて皆さまからの写真で表紙を飾ることとします。

**趣 旨**

わが国は急峻な地形であることや水田稲作が発達したことに起因して、水を制する、水を利用するための土木施設が数多く造られてきました。それら用水路、頭首工、堰堤などの水利施設は、今も過酷な自然の猛威にさらされながらも、農業経営、防災などの面で人々の生活を支えています。また、それぞれの機能を発揮するとともに、年月を重ねることでその地域の自然や文化にとけ込み、その景観を構成する要素として不可欠なものもあります。それが大規模プロジェクトで建設されたものでなくとも、私たちが調査・研究・事業の対象としている農村地域には、規模に違いこそあれ立派に機能美と景観美を放つものが存在します。

農業・農村の現場で活躍される皆さま、日頃何気なく見過ごしているかもしれない水利遺構とそれを含む景観の美しさを再評価いただき、忙しい業務の合間にも、足を止め、手を休めて写真として記録いただき、広く学会員にご紹介下さい。特に今回は、「夏」が感じられる「水利遺構」の写真を募集いたします。

**記**

**1. テーマ**

「水利遺構：先人たちの技術と苦労が垣間見える造形美」  
 (昨年と同様)

**2. 対象巻号**

学会誌第79巻（平成23年1～12月号）のうち、特に夏季のもの

**3. 写真の種類**

単写真、組写真いずれもカラープリントで（デジタルカメラの場合はJPEG ファインモードまたはTIFF モードに設定）撮影して下さい（サイズは六ツ切）。組写真の場合は、その旨明記して下さい。

**4. 枚数**

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

**5. 締切** 平成22年9月30日（夏季の写真）

**6. 審査** 審査委員会（編集委員と写真家）で選考します。

**7. 結果発表**

学会誌第79巻第1号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は平成23年度大会会場でパネル展示します。

**8. 謝礼**

採用作品には規定の賞金（1点につき3万円）をお支払いします。また、応募者には記念品をお送りします。

**9. 「Cover History（表紙写真由来）」について**

採用作品の応募者には学会誌掲載の「Cover History（表紙写真由来）」をご執筆頂きます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。なお、些少ですが原稿料をお支払いします。

**10. 使用权**

採用作品の使用权は（社）農業農村工学会に属します。

**11. 注意点**

応募された被写体の季節が極端に偏ることから、募集する季節ごとに締切を設けさせていただきました。

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、水利構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること（花などの情緒物に埋没しないこと）、また、デジタル画像の場合は表紙に拡大したときにドット崩れしない十分な解像度があること、が採用の条件となります。

**12. 応募方法および応募先**

学会ホームページより、応募票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、年齢、職業、電話番号、性別、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、撮影データ（フィルム、使用カメラ等）、対象物の固有名称（固有名詞）、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送り下さい。

なお、原則として、応募写真は返却しません。

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

（社）農業農村工学会

農業農村工学会誌編集委員会「表紙写真公募」係

☎03-3436-3418 FAX 03-3435-8494

E-mail : suido@jsidre.or.jp

## 「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

学会誌編集委員会

### 自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページに掲載の「農業農村工学会誌投稿要

項」，「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上，ご投稿下さい。

### 学会誌 78, 79 巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 (A4判 1,500字以内)	原 稿 締 切 (刷 上 り 4 ペ ー ジ 厳 守)
78 巻 11 号 コスト削減に資する圃場整備 (仮)	公募終了	
12 号 小特集なし		
79 巻 1 号 次世代育成の現状と課題 (仮)	公募なし	
2 号 ため池における危機管理 (仮)	平成 22 年 9 月 21 日	平成 22 年 10 月 29 日
3 号 農村における生物多様性の保全 (仮)	公募なし	
4 号 地域に貢献する「水土」の改善 (仮)	平成 22 年 10 月 25 日	平成 22 年 12 月 10 日
5 号 土構造物および土中構造物数値解析の最前線 (仮)	平成 22 年 11 月 25 日	平成 23 年 1 月 10 日
6 号 大会関連	公募なし	

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても，広く募集しておりますので，学会誌編集委員会あてにお寄せ下さい。なお，小特集テーマが仮題となっているものは，予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は，刷上り 4 ページとなっておりますので，ご執筆の際には厳守いただきますよう，お願いいたします。

### 79 巻 2 号テーマ「ため池における危機管理」(仮)

ため池は，降水量が少なく，流域の大きな河川に恵まれない地域などで，農業用水を確保するために水を貯え取水ができるよう，人工的に造成された池であり，新田開発や用水不足解消を目的に，古代から近代にわたる長い歴史の中で築造され，現代に至っても貴重な水源として農業の礎の役割を果たしています。

現在，全国には約 21 万のため池が存在しており，地域の文化にも深く関わり，周辺の農地や里山と一体となって多様な生物の生育・生息の場となっています。

また豊かな自然環境とのふれあい・やすらぎの場，さらには環境教育の場など，多様な役割も発揮できる場であり，地域振興の核となる可能性を秘めています。

### 79 巻 4 号テーマ「地域に貢献する「水土」の改善」(仮)

学会誌の愛称が「水土の知」となり 3 年余りが経ち，「水土」という言葉もだいたい馴染みのあるものになってきました。「水土」は国民の生産基盤や生活基盤などを形成する源です。また，「水土」の改善と保全は農業農村工学の永遠の課題です。

他方，新たな食料・農業・農村基本計画では，「農業生産力強化に向けた農業生産基盤整備の抜本見直し」が提言され，これからの農業生産基盤の保全管理・整備にはより高い効果と効率性が求められるとともに，国民の理解を得ながら新たな展開を図ることが必要とされています。農業農村工学がこうした課題

ます。

送付先 〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4  
(社) 農業農村工学会 学会誌編集委員会あて  
☎03-3436-3418 FAX 03-3435-8494  
E-mail: henshu@jsidre.or.jp

しかしながら，農業者の減少・高齢化に伴い，従来のようなため池の維持管理が難しくなっており，防災・減災面での脆弱化が課題となっていることから，特に災害発生のおそれがあるため池については，その危機管理が課題となってきています。危機管理として防災情報の管理システムの構築や，ハザードマップの作成，防災・減災のために必要な計画や体制の整備等に取り組む地域は全国的に広がりをみせていますが，今後ともさらに推進される必要があります。

以上のことから，本小特集では，防災・減災を目的とするため池の危機管理の取組みへの一助となるよう，ため池の危機管理への取組に対する報文を広く募集します。

を克服していくためには，農業用水の水質の悪化，土地改良施設の劣化，耕作放棄の進行，異常気象や震災などによって弱体化する地域の「水土」を効果的に改善する方策やこうした事項から地域の「水土」を保全する方策を講じていかなくてはなりません。また，これまで以上に「水土」の改善を通じて生産基盤，生活基盤などの質的向上を図り，地域に貢献し，広く国民の理解を得ていかなくてはならないでしょう。

本小特集では，農業用水の水質の悪化，土地改良施設の劣化，耕作放棄の進行，異常気象や震災などによって弱体化した地域

の「水土」の改善を目的に、フィールドで実践されている取組 みにについての報文を募集します。

### 79 巻 5 号テーマ「土構造物および土中構造物の数値解析の最前線とその適用」(仮)

農業農村基盤整備における土構造物および土中構造物は、時代の変遷によらず重要な構造物であるといえます。近年これらの土構造物および土中構造物は、構造物の大規模化により、施工過程を考慮した構造物の挙動の把握が求められています。また、新材料の適用に際し、新しい施工法の評価手法の開発が求められています。さらに、構造物のライフサイクルコストを最小化する社会的な要望を満たすために、構造物の長期的な挙動の予測が求められています。これらに加えて、大地震や豪雨災害などに対する土構造物や土中構造物の高度な挙動予測は、防災・減災の面だけでなく性能設計の面からも求められています。これらの課題に対して、農業農村工学分野においても、土構造物および土中構造物の数値解析は着実な進歩がみられます。

土構造物および土中構造物の数値解析の進歩は、要素試験に

よる構成モデルの開発とともに、その適用事例によってわかる新たな知見とその限界の発見によって進められてきました。しかし、数値解析の結果は数値データとして得られるため、実務においてはその限界を把握しないまま使用される可能性もあります。このため、数値解析手法を適用した現場事例と得られた数値データをエンジニアリングジャッジメントする際の注意点に関して、広く知識を共有することは農業農村工学会員にとって有益なことと思います。

そこで、本特集では、土構造物および土中構造物の数値解析において、複雑化する近年の課題に対する最新の数値解析手法の紹介とその可能性を示す報文を募集いたします。また、数値解析手法の現場適用における利点と課題を事例とともに明らかにする報文を広く募集いたします。

### 国際学会「国際水田・水環境工学会」への入会のお願いと 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」について

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering : PAWEES) は、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊し、2010年9月末に Vol. 8, No. 3 が発刊されます。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。たくさんの方々が国際学会へ入会されることを希望します。

掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑 (水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水 (排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全 (土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全 (水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能 (洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全 (水生, 陸生動植物の生態系)
- ⑦ 地域計画 (農村計画, 土地利用計画など)
- ⑧ バイオ環境システム (水田農業と水環境, 土壌環境, 気

象環境)

- ⑨ 水田の多目的利用 (田畑転換, 施設園芸)
- ⑩ 農業政策 (農村振興, 条件不利地の支援策など)

水田農業を通じた国際的な研究交流, 情報交換の場として、皆様の国際学会への入会をお勧めします。

国際学会に入会されますと、会員には国際ジャーナルが、年4回無料で配布されます。

出版社: Springer-Verlag 社 (ドイツ)

発刊スケジュール: 2003年3月創刊, 以後3カ月ごと

国際学会会費: 正会員 12,000 円/年/4冊 (送料等学会負担)

学生会員 (院生含む) 8,500 円/年/4冊 (送料等学会負担)

申込先: 農業農村工学会編集出版部 中村あて

ホームページ: <http://www.jsidre.or.jp>

※入会のお申込は、学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/publ/ij/scope.htm>) の「5. APPLICATION FORM FOR THE REGULAR MEMBER」にご記入のうえ、メールまたは FAX でお申し込みいただけます。

### 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2009年1月から2011年12月までの編集事務局 (投稿先) のお知らせ

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering) は、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊、2010年9月末に Vol. 8, No. 3 が発刊されます。

わが国においても学術誌の評価に、SCI (Science Citation Index) の IF (Impact Factor) が利用されており、本国際ジャーナルでも IF の取得により高い評価の定着を目指してきました。

また、世界13カ国からEditor(14名)を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名なSpringer-Verlag社からの刊行です。

掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の4種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに、年4回の発行としております。投稿者は国際学会員に限りませんが、投稿料、掲載料などを無料として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

このような努力が実り、2009年12月、本ジャーナルがトムソン・ロイター社のSCIEに収録され、インパクトファクターを獲得したというビッグニュースが飛び込んできました。詳細についてはEditor-in-Chiefによる海外ニュースが本誌1月号88ページに掲載されていますのでご参照下さい。

2009年1月から2011年12月までの編集事務局(投稿先)は、台湾になります。

投稿先: Yu-Pin Lin, Ph. D., Professor

Department of Bioenvironmental Systems Engineering National Taiwan University

No. 1, Sec. 4, Roosevelt Road, Taipei, 10617 Taiwan (R. O. C.)

E-mail: yplin@ntu.edu.tw

TEL: +8862-2-3366-3467

FAX: +8862-2-2363-5854

(During Jan. 2009 to Dec. 2011)

編集方針: 水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。

その分野は、水田農業地帯における灌漑と排水、土壌保全、

土地資源や水資源の保全と管理、水田の多面的機能、農業政策、地域計画、バイオ環境システム、生態系の保全、水田保全、田畑輪換等である。

#### 編集体制

• Editor-in-Chief: Dr. Yoshisuke Nakano (Japan)  
Professor Emeritus, Kyushu University, Japan

• Editors 13カ国から14名

• Editing Board 32名

• Managing Editors

Chief Managing Editor: Prof. Dr. Yu-Pin LIN

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Taipei, Taiwan, Rep. of China

Prof. Dr. Yoshiyuki SHINOBU

Faculty of Agriculture, Kyushu University, Fukuoka, Japan.

Prof. Dr. Haruhiko HORINO

Graduate School of Life and Environmental Sciences, Osaka Prefecture University, Osaka, Japan

Dr. Kazunari FUKUMURA

Department of Agricultural Environmental Engineering, Utsunomiya University, Utsunomiya, Japan

Prof. Dr. Soon-Jin HWANG

Department of Environmental Science, Konkuk University, Seoul, Korea

出版社: Springer-Verlag社(ドイツ)

投稿資格: 筆者全員が国際学会員であること。

投稿要領等: <http://www.jsidre.or.jp> に詳細を記載しています。

## 平成22年度北海道支部行事予定について

技術者継続教育プログラム認定申請中



北海道支部では今年度の行事としまして、下記のように予定しております。それぞれの実施内容の詳細については、本誌会告または支部ホームページにてお知らせします。

### 1. 第59回研究発表会

期日 平成22年10月15日(金)

会場 札幌市・北海道大学学術交流会館2階 講堂

### 2. 第35回研修会または第33回シンポジウム

期日 平成22年11月17日(水)

会場 札幌市・北海道大学クラーク会館 講堂

### 3. 講習会

期日 平成23年1月19日(水)

会場 札幌市・北海道大学学術交流会館2階 講堂

### 4. 問合せ先および申込先

〒060-8589 北海道大学大学院農学研究院内

農業農村工学会北海道支部事務局

担当: 柏木淳一 E-mail: kashi@envagr.hokudai.ac.jp

☎011-706-3641 FAX 011-706-2494

## 平成22年度京都支部地方講習会・シンポジウムの開催について(第2報)

技術者継続教育プログラム認定申請中



平成22年度京都支部地方講習会・シンポジウムを10月14日(木)、15日(金)の2日間にわたり開催します。地方講習

会・シンポジウムのプログラム、参加申込みについては、下記のとおりです。多数のご参加をお待ちしております。

記

1. 開催日時

- (1) 地方講習会  
平成 22 年 10 月 14 日 (木) 13:30~17:00
- (2) シンポジウム  
平成 22 年 10 月 15 日 (金) 10:00~15:30

2. 開催場所

中電ホール  
〒461-0006 名古屋市東区東新町 1  
TEL&FAX 052-951-6908  
名古屋駅からは地下鉄東山線、「栄駅」5 番出口から東へ徒歩約 5 分

3. プログラム

- (1) 10 月 14 日 (木) 地方講習会  
12:30 受付開始  
13:30~13:45 開会挨拶  
13:45~14:45 土地改良事業計画設計基準・計画「農業用水 (水田)」  
農林水産省農村振興局農村政策部  
農村環境課計画基準班課長補佐 高橋良次  
14:45~15:45 農村環境の広域的な保全に向けた構想づくりガイドブック (仮称)  
農林水産省農村振興局整備部  
設計課計画調整室課長補佐 福田浩二  
15:45~16:00 休憩  
16:00~17:00 機能診断の手引き (開水路), 機能診断の手引き (頭首工)  
農林水産省農村振興局整備部  
水資源課施設保全管理室課長補佐 糸賀信之  
17:00 閉会
- (2) 10 月 15 日 (金) シンポジウム  
テーマ「農村における生物多様性の保全」  
9:30 受付開始  
10:00~10:05 開会挨拶  
10:10~11:00 基調講演「環境修復の取組と課題」  
農業農村工学生物多様性国際会議対応小委員会  
委員長 (宇都宮大学農学部教授) 水谷正一  
11:00~12:30 話題提供「水路と水田の生態系」  
農村工学研究所農村環境部生態工学研究室長  
森 淳  
「環境修復のハード技術」  
福井県土地改良事業団体連合会 鈴木正貴  
「環境修復のソフト技術」  
岩手大学農学部教授 広田純一  
(昼休み) パネル展示 (13:00~14:00)  
生物多様性保全の取組みをパネルにて紹介  
14:00~15:30 パネルディスカッション

「農村における生物多様性の保全」

コーディネーター：水谷正一  
パネリスト：森 淳, 鈴木正貴, 広田純一,  
加藤辰雄 (愛知県安城市榎前町内会長)

15:30 閉会挨拶

※ 講師の都合により、講演テーマ等を変更する場合があります。

4. 参加費等

区分	講習会	シンポジウム	合計
会員	1,500 円	無料	1,500 円
非会員	2,000 円	無料	2,000 円

5. 参加申込方法

- (1) 申込書  
所定の申込様式により所属機関ごとに取りまとめ、お申し込み下さい。
- (2) 申込締切日  
平成 22 年 9 月 27 日 (月)
- (3) 参加費の納入方法  
銀行振込または当日払いです。どちらで納入するか申込用紙にご記入下さい。当日払いの方はお釣りのないようご準備下さい。
- (4) 参加費の振込先  
銀行名：三菱東京 UFJ 銀行 名古屋市役所出張所  
口座番号：普通 1126750  
口座名称：農業農村工学会京都支部東海事務局 担当梅田勝彦  
※ 振込手数料は、各自にてご負担願います。また、振込元を確認するため、所属、氏名等をご記入下さい。  
なお、振込み後の参加費用等の返還には応じられませんのでご注意ください。

【申込様式】

平成 22 年度 京都支部地方講習会・シンポジウム参加申込書  
所属機関 \_\_\_\_\_  
所在地 (〒 - ) \_\_\_\_\_  
連絡者氏名 \_\_\_\_\_ FAX \_\_\_\_\_

所属	氏名	会員区分 (会員・非 会員)	講習会 1,500 円 (2,000 円)	シンポジ ウム (無 料) 出欠席	合計 (円)	技術者継 続教育機 構会員番 号	支払方法 (振込・当 日)
〇〇〇	東海太郎	会員	1,500 円	出	1,500 円	L123456	振込
	東海次郎	非会員	2,000 円	欠	2,000 円	M65432	当日
計		会員 非会員	1 人 1 人	1 人 0 人	3,500 円		

注) ①会員区分については、会員もしくは非会員、支払方法については、振込もしくは当日をご記入下さい。  
②本講習会・研修会は、技術者継続教育機構の CPD 単位にカウントされますので、個人会員の方は、CPD 会員番号をご記入下さい。

## 6. 参加申込先

東海農政局整備部設計課 進藤, 梅田, 筒井  
〒460-8516 名古屋市中区三の丸 1-2-2  
☎052-223-4634 FAX 052-219-2667  
E-mail : takanori\_tsutsui@tokai.maff.go.jp

## 7. その他

宿泊の斡旋・手配は行いませんので、各自でお申し込み下さい。

なお、じゃらんホームページ (<http://www.jalan.net>) 等で名古屋市内の宿泊施設がご覧いただけます。

## 平成 22 年度農村道路研究部会研究集会・現地研修会の開催について (第 2 報)

技術者継続教育プログラム認定申請中



農村道路研究部会では、以下のとおり第 20 回研究集会および現地研修会を開催しますので、ご案内いたします。

1. 期 日 平成 22 年 11 月 4 日 (木) 研究集会  
平成 22 年 11 月 5 日 (金) 現地研修会

## 2. 研究集会

- 1) 日時：11 月 4 日 (木) 12:30~16:30  
(受付開始 12:00)
- 2) 会場：男女共同参画センター「あすなら」大会議室  
〒630-8122 奈良市三条本町 8 番 1 号  
再開発第一ビル 2 階  
☎0742-34-1525 FAX 0742-33-6938
- 3) 特定課題「農村道路の機能保全」
  - ①招待論文：特定課題
  - ②研究論文：特定課題および農村道路に関わる研究課題
  - ③技術報文：農村道路に関わる計画・調査・施工の自由課題
- 4) 参加費：4,000 円/人

## 3. 現地研修会

- 1) 日時：11 月 5 日 (金) 9:00~15:00 (予定)
- 2) 見学地：奈良県大淀御所地区の基幹農道整備事業および今木葉水地区・高市地区のふるさと農道など
- 3) 参加費：3,000 円/人 (バス代)

## 4. 発表申込み

- 1) 研究集会で発表するためには、原稿の提出と同時に発表申込が必要になります。発表申込書および原稿作成要領は、以下の WEB ページからダウンロードすることができます。  
<http://www.nodai.ac.jp/eng/original/hyse/JSIDRE/AnnualMeeting.html>  
発表申込みは執筆者のみとなりますので、連名者で研究

集会に参加される方は参加申込を別途行って下さい。

- 2) 原稿提出締切は 10 月 8 日 (金) です。

## 5. 参加申込み

- 1) 参加申込は、参加申込書を以下の WEB ページからダウンロードし、必要事項を記入の上、FAX もしくは E-mail にて行って下さい。  
<http://www.nodai.ac.jp/eng/original/hyse/JSIDRE/AnnualMeeting.html>  
また、E-mail で申込される場合は、参加申込書をメールに添付し、表題として「農村道路研究部会研究集会の参加」と明記して下さい。
- 2) 参加申込締切は 10 月 22 日 (金) です。
- 3) 参加費は、原則として参加申込と同時に以下の銀行口座に納金 (振込み手数料は参加者でご負担) 願います。やむを得ない理由がある場合には現地精算も可能ですので、参加申込の際に事務局までご連絡下さい。  
銀行名：ゆうちょ銀行 五二八支店 (店番号 528)  
口座番号：普通預金 0642789  
口座名：農業農村工学会農村道路研究部会

## 6. 原稿提出先および申込先

鳥取大学農学部 緒方英彦  
〒680-8553 鳥取市湖山町南 4-101  
TEL&FAX 0857-31-5397  
E-mail : ogata@muses.tottori-u.ac.jp

7. 宿 泊 各自で手配下さい。

8. 問合せ先 申込先と同じです。

## 9. その他

詳細は部会の WEB ページにも随時掲載いたします。

<http://www.nodai.ac.jp/eng/original/hyse/JSIDRE/AnnualMeeting.html>